

# 喜久屋書店スタッフのオススメ本 紹介



## 今月は理工PC担当者の オススメ本を紹介します

店名	タイトル	アピールポイント
小樽店	 <p>なんでそうなの 札幌のカラス 中村真由子</p>	<p>「札幌の」とあり、「北海道新聞社」の本なので舞台は札幌中心の話となりますが、カラスの生態や、「なぜ、襲ってくるのか」「襲ってこないようにする対処法」など全国的にも使える話が多く、あまり同ジャンルの方がないので北海道以外の地域でもオススメです。</p>
帯広店	 <p>小学館の図鑑Z 日本魚類館 中坊眞次</p>	<p>天皇家、明仁様のご執筆とのことでメディアにのり十勝の地元紙Chaiでも紹介されました。価格は6900円(本体)と高めですが、地理的な広がりや系統進化を綺麗な写真と文章で紹介しています。</p>
高岡店	 <p>身のまわりの すごい技術 大百科 潘井良幸 潘井真美</p>	<p>身のまわりの すごい技術大百科</p> <p>身近な文房具から、便利過ぎるハイテク機器まで、すごい技術に感動させられる1冊です。</p>

<p>太田店</p>		<p>サボテン全書</p>	<p>サボテンを美しい写真とデータでまとめた書籍。実は類書がなく、有名サボテン店ではタイ語原書での注文も殺到したほどです。植物の図鑑としても、写真集としても楽しめる良書です。</p>
<p>宇都宮店</p>		<p>やさしく学べる微分積分</p>	<p>例題と練習問題を解きながら、微分積分を学ぶために必要な関数とその法則や微分積分の基本的な知識の理解が進むよう、わかりやすく解説してあります。高校時代数学が苦手だった人、もちろん文系の人にもお勧めです。</p>
<p>宇都宮店</p>		<p>AI vs. 教科書が読めない子どもたち</p>	<p>『進路や転職に悩む若者にこそ読んでもらいたい一冊』この本は、これから10年とちょっと先の未来が見える本です。日々進化し続けるAI。なんでも出来てしまうと思われがちですが、実は弱点があると解説されています。将来、AI技術の発展によって消えていく企業や、必要なくなる人材がわかったところで本書は本題に入ります。AIの弱点を踏まえて、これから私達人間に求められるスキルとは一体どんなものなのか、どうすればAIと共存できるのか、そのために磨くべきスキルとは、読み進めていく事で鮮明に見えます。多くの方に読んで頂ければ幸いです。特に就職や転職を前にした若い方には是非読んでいただきたい一冊です。きっと助けになると思います。</p>
<p>千葉ニュータウン店</p>		<p>身のまわりのすごい技術大百科</p>	<p>タイトルどおりの科学雑学本です。項目ごと2~4ページほどでスイスイ読めます。ビットコイン、文具、無洗米など日頃気になっていたもの・そうじゃないものの仕組みを完結に紹介しています。興味のあるジャンルをさらに深く知りたくなる本です。</p>

<p>大垣店</p>		<p>図解 身近にあふれる「科学」が 3時間でわかる本</p>	<p>羽根のない扇風機やロボット掃除機の仕組み等、身近にあるけれども、仕組みが良くわからないモノについて図解で簡単に解説されています。大人になってから、あまり学ぶ事の無い最新の科学の仕組みについて教えてくれる本です。知的好奇心が刺激されます。</p>
<p>草津店</p>		<p>たった1秒の最強スキル パソコン仕事 が 10倍速くなる80の方法</p>	<p>マウスを使わずにキーボードだけで操作出来る。ショートカットキーなどワード・エクセル等で使える時短ワザを80項目に分けて紹介しています。覚えやすいものを日頃の作業に導入するだけでもある程度の時間短縮に繋がります。職場のディスクに1冊、いかがでしょうか。</p>
<p>奈良駅店</p>		<p>NewScientist 起源図鑑</p>	<p>生命の起源、言葉の起源、宗教の起源、お金の起源、コンピュータの起源などあらゆる物事の起源が紹介されています。3億年前の虫は巨大だったが、1億5千年前に鳥が現れて小さくなったとか、50万年前には人類はすでに言語を使っていたであろうとか、紀元前5万年以来生まれた総人口は1077億人でそのうち6.5%(70億人)が現在もご存命とか…。子どもから大人まで知的好奇心を刺激される一冊です。</p>
<p>大和郡山店</p>		<p>身のまわりの すごい技術大百科</p>	<p>文房具も生活用品も身近な家電もすごい科学技術の結晶だった。身近すぎて気にならなかったあんなモノこんなモノには驚くべき科学技術が使われていた。雑学本としても面白く大人も子どもも楽しめる。</p>

<p>檀原店</p>		<p>ニュートンライト 素数のきほん</p>	<p>17年の素数ゼミが大量発生したのが今年2018年。13年周期の素数ゼミと17年周期の素数ゼミが出会うのが221年に1度。素数、最小公倍数について、わかりやすく少しくわしくなっているのがニュートンライトです。</p>
<p>心斎橋店</p>		<p>魔法の Excelショートカットキー</p>	<p>他のショートカットキーの解説本と読み比べてみたのですが、こちらはなにげに文章が面白いんです。だいたい他の本では、シンプルに使用例だけが数多く載っているのですが、これは違います。①本当に使えるモノだけを厳選！②イメージやエピソードに絡めているので「忘れにくい！」③ページ数も少なめで緩めのイラストもあり、初心者やパソコンが苦手な人でも読みやすい。86頁の「置換はエッチ？」の項目では単なるふざけた語呂合わせかと思いきや、痴漢は犯罪でエッチで済まされる話ではないとか、もっと厳罰化するべき、などと真剣に語られ逆に心に残るという、、、。筆者がITライターから小説家に転向し、またITライターとしても執筆し出した、大村あつしさんという方で、ふんわり優しいお兄さんの様な口調がとても読みやすく親しみが持てます。語り口がとても読みやすく、親しみが持てます。</p>
<p>阿倍野店</p>		<p>超有名進学校生の 数学的発想力</p>	<p>A校(兵庫県にある超進学校)の生徒たちが多く通う進学塾、研伸館で数学を教える著者。この本では、謎のペールに包まれた(?)A校生たちの普段の姿や思考の様子を、A校や東大の入試問題を例に、授業を再現した対話形式で表現しています。その計算や証明の過程をコツコツと追っていくことは、骨が折れますが(読み飛ばしても問題ない)、生徒たちが「真面目に勉強して、優秀で品行方正」という誤った神格化を打ち破ってくれます。好きな事にはとことん打ち込み、集中した時のポテンシャルは非常に高いが、普段は至って普通の中高生である彼らの生き生きとした愉快な姿を見ることが出来ます。</p>
<p>豊岡店</p>		<p>ザハ・ハデイド全仕事</p>	<p>2年前惜しまれつつ急逝したザハ・ハデイドの仕事を網羅する一冊。ザハ・ハデイドといえば最終的に不採用となった新国立競技場の設計者でしたが、景観にそぐわない、ランニングコストの問題などあったにせよ、個人的には彼女の案が良かったのではと思っています。建築を観に行くために、その場所に訪れたいと思える建築家なんてそうそういるものではありません。新国立競技場がそのような建築物になりえたのではないかとすると、本当に残念でしかたがないのです。</p>

<p>北神戸店</p>		<p>アリエナイ理科ノ大事典</p>	<p>専門書ではなく、サブカル的内容です。月刊『ラジオライフ』『ゲームラボ』の連載とイレギュラーの特集記事10年分を凝縮した集大成の1冊。アブナイ実験とエクストリーム工作を網羅し、300ページ以上の大ボリューム。単価も¥2000と高単価！破天荒な科学知識が満載です。</p>
<p>神戸南店</p>		<p>動物学者が死ぬほど向き合った「死」の話</p>	<p>あらゆる生物に訪れる「死」というテーマを重く受け止めつつ、暗い話題で書き綴るのではなく、ユーモアを交えて紹介し、かつ真面目に死と生を考えている科学エッセイ。</p>
<p>北町店</p>		<p>ビッグヒストリー われわれはどこから来て、どこへ行くのか</p>	<p>よく答えはすべて歴史や古典の中にあるという言い方を耳にしますが、この本は断片的な歴史の知識ではなく自然科学から人文科学をまたぐ歴史の流れが頭の中にスーッと入ってきます。考える力をつける理工書であり歴史書でもあります。</p>
<p>学園都市店</p>		<p>小学校6年分の算数が教えられるほどよくわかる</p>	<p>算数の復習にもよし、お子様へ上手に教えたい方にも本書は最適です。分数の割り算は、なぜひっくり返すのか？3通りの説明方法があるようです。</p>

<p>新長田店</p>		<p>12歳の少年が書いた 量子力学の教科書</p>	<p>そもそも9歳にして物理学を自分のものにしてやろうと野望し、12歳で既存の量子力学の入門書・専門書を網羅、そしてその問題点に着目するとは、最早大人の出る幕は無い感が否めない。近藤くんはその二つの間を、既存の専門書が既知として省いてしまう基本概念を押さえることで「中間書」という形で見事に橋渡ししてみせた本書。量子力学初心者であっても小難しい数字を飛ばして読んで、その概要が理解できる。</p>
<p>西神中央店</p>		<p>スゴい iPhone</p>	<p>iPhone芸人かじがや卓哉のiPhone解説書。他の解説書にはないカユイトコロに手が届くような便利なテクニック満載です。iPhoneX/8/8Plus対応</p>
<p>須磨パティオ店</p>		<p>遺伝子-親密なる人類史- 上巻</p>	<p>19世紀後半にメンデルが発見した遺伝の法則と、ダーウィンの「進化論」が会ったとき、遺伝学は歩み始めた。ナチス・ドイツが利用した優生学による「民族浄化」という負の遺産を背負いながら、第二次世界大戦後のワトソンとクリックによるDNA二重らせん構造の発見をへて、遺伝学は生命科学そのものを変貌させてゆく。ピューリッツァー賞受賞作『がん-4000年の歴史-』の著者が語る「遺伝子」全史。この本ですべてがわかる。</p>
<p>明石駅ビル店</p>		<p>ビジネスExcel 完全版</p>	<p>本書をオススメする一番のポイントは、180°開くことができる特別製本であること。本を開きながら作業ができるので、効率よくストレスなく作業がはかどる。全てカラーページで構成されており、基本的な操作から文章、関数、マクロの項目に分かれており、順を追って学習が可能である。また、掲載されているエクセルのサンプルファイルをダウンロードできるので便利である。</p>

<p>倉敷店</p>		<p>エアロMECIA 夢への挑戦</p>	<p>地元の水島工業高校の「エアロメシアプロジェクト」の太陽光や燃料電池を利用した、世界初の一人乗り飛行機の開発の記録です。</p>
<p>小倉店</p>		<p>独学プログラマー Python言語の基本から 仕事のやり方まで</p>	<p>Pythonに関する初心者向けの本はたくさんありますが、この本はこれからプログラムを本格的に独学したいという方にお勧めです。Pythonの文法だけでなく、プログラム全般の知識やバージョン管理といったプログラマとして仕事をするためにも必要なノウハウを得ることができます。独学でプログラマーを目指そうとする方はぜひ一度読んでいただきたい1冊です。</p>
<p>小倉南店</p>		<p>プログラミング言語図鑑</p>	<p>PCといえばネットゲカネサフくらいしかしない、そんな理エオンチ、PCド素人がこのジャンル担当になるにあたって、某PC専門出版社の営業さんから「とりあえず、これ読みなさいよ」とオススメされたのが本書。今やプログラミングは小学生でもやる時代、学校教育にも取り組まれる中「プログラミングとはなんぞや」をイラストまじりでもコアに教えてくれる本書は、プログラミングに関わらざるをえなくなった全ての人にオススメです。</p>



©えび

次月は文庫新書担当者の  
オススメ本を紹介予定！  
お楽しみに！！